

## あ と が き

本学が昭和 43 年 9 月に「東京理科大学の現状と課題」（理大白書）を刊行して以来、既に 40 年近くが経過した。今回で第 19 版を数え、これまで刊行された各版において本学の様々な出来事を連綿と記録してきたが、大学全入時代、いわゆる 2007 年問題が現実のものとなった今日、大学を取り巻く情勢は誠に厳しいものと認識せざるを得ない。少子高齢化に伴う 18 歳人口の減少により、平成 19 年は大学全入元年に当たり、大学といえども一般企業と同様、サバイバル時代を勝ち抜いて行かなければならない状況に晒されている。このように、社会の仕組みが音を立てて激しく変化している最中、本学はキャンパス再構築、学部・大学院改革などを筆頭に、他に先んじて強力に変革を進め、自己改革・自己改善に努めているところである。これまで本書は、本学の自己点検・自己評価の確かなエビデンスとして重要な役割を果たしてきたが、本学の現状と課題を正確に示すことにより、大学という有機体に自己啓発と未来開拓の可能性を与えるという意味において、今ほどその責任が重いときはない。

本書の第 19 版を編集すべく、常務理事会のもとに白書編纂委員会が設置されたのは昨年 5 月のことである。当時、既に本学は平成 20 年度に（財）大学基準協会による認証評価を受審することを決め、それに向けて東京理科大学自己点検・評価報告書を作成する委員会が立ち上がっていた。従って、この自己点検・評価報告書と本書との関係が冒頭で議論された。しかし、自己点検・評価報告書は、法令上定められた 7 年ごとの認証評価受審の際に作成されるものであり、自ずと本書とは性質を異にしているため、本学の自律的・自主的な自己点検書として本書を編纂することを再確認した。以後、3 回の委員会を開催し、慎重に編集作業を重ねた。本書の記述項目の設定は、基本的には第 18 版を踏襲したものであるが、創立 125 周年記念事業、総合研究機構の設立、バイオインフォマティクス教育センターの発足、達人チャレンジ選抜制度の導入などをはじめとして各章に新たな項目を設けた。また、平成 18 年 4 月に設置された 6 年制薬学部についての記載など、最新の情報を盛り込むべく随所で前版の記述を更新した。さらに、「V 山口東京理科大学」、「VI 諏訪東京理科大学」については、今回、両章の記載項目の整合化に努め、各学長のもとで取りまとめられた内容を記載した。

なお、本版の体裁上一番の特徴は、読者の便に供するため、小項目を目次に取り挙げ、さらに巻末に索引を付けた点である。また、これまでの冊子版に加え、CD-ROM 版を作製し、本学の新生、在学生の希望者に配布できるよう配慮した。CD-ROM 版にはその特性を活用

して、創立 125 周年記念関連の写真が多数収録されているので、是非ご覧戴きたい。また、国会図書館への献本も含め、本書を社会に広く認知してもらおう試みとして、ISBN（図書コード）を取得した点もこれまでにはないことである。

本学独自の自己点検・評価報告書として本書が活用され、もって学校法人東京理科大学発展の一助となれば幸いである。最後に、本書の編集にご協力戴いた白書編纂委員会委員各位、企画調査課の方々、ならびに関係各位のご尽力に感謝申し上げます。

平成 19 年 3 月

白書編纂委員会

委員長（白書担当理事） 中 村 洋